



鳥編Bookmark

第一弾 全 5種類 300円/枚
第二弾 全10種類 350円/枚

生きもののクリップ

第一弾 身近な生きもの
全12種類 200円/個
第二弾 アメリカの陸上動物
全12種類 200円/個

絵あわせパズル

全4種類 1,000円/袋(1袋10枚入)



アクティビティの紹介

プロジェクト・ワイルドは野生生物になりきる『模擬体験』を通して環境を学ぶプログラムです。

現在、約200のアクティビティがあり、総合的な学習の時間や各教科、野外活動など、様々な場面に応じて使うことができます。

●本編「瞬間冷凍動物」

野生生物は、捕食者と獲物の関係（例えばキツネと野ウサギ）において生きるための様々な行動をとります。例えば、獲物の行動には迷走する・戦う姿勢をとる・隠れ場所に逃げ込む・動きを止めるなどです。

このアクティビティでは「氷鬼（こおりおに）」に似た要領で、営巣地・食事場所・隠れ場所として設定したコートをつくり、捕食者と獲物に分かれて生き残りをかけた鬼ごっこをします。



体験からこんなことを学びます！

- 捕食者と獲物の両方に重要な「適応」
- 捕食者と獲物の関係など、野生生物の個体群に影響を及ぼす制限要因

Project WILD®

気づく楽しさ 知るよこび
いきものから学ぶ環境教育プログラム

概要

野生生物を題材として環境を学ぶプログラムです。「自然を大切に」と理解するだけではなく「自然や環境のために行動できる人」を育成することを目的としています。

米国にて、教育者・環境保全や自然保護に関わる人・企業や産業の代表者など様々な視点をもつ多くの人々の協力を得ながら開発が続けられており、現在では150万人以上の指導者が養成されています。

日本の他、カナダ、チェコ、インド、アイスランド、スウェーデンなどの国々の環境教育現場でも導入されています。

プロジェクト・ワイルドでは、一つの活動をアクティビティと呼んでいます。

アクティビティの特徴

- 子どもたち主体の体験型学習で、誰もが楽しく参加することができます。
- 授業の形態や地域の特性などに合わせたアレンジができます。
- グループ作業やプレゼンテーションの機会が多く、コミュニケーション能力、発表能力を磨くことができます。
- 内発的な疑問「なぜ？」を促し、解決までの過程を重視しているため、建設的に考える力が身につきます。
- 様々な考えを共有し他の意見を取り入れるため、多くの「気づき」を得ることができ、さらなる深い考えへと発展させます。

プロジェクト・ワイルドは、環境教育推進法における人材認定等事業*において環境省、国土交通省から認定されています。

※人材認定等事業とは、環境の保全に関する「指導者を育成する事業」または「指導者を認定する事業」を指します。



お問い合わせ先

(一財)公園財団 プロジェクト・ワイルド事務局 TEL03(6674)1188
〒112-0014 東京都文京区関口1-47-12 江戸川橋ビル2階
電子メールアドレス:projectwild@prfj.or.jp

環境教育プログラム

プロジェクト・ワイルド



一般財団法人 公園財団



指導者になる

エデュケーター養成講習会

全国各地で開催されています。講習会ではプロジェクト・ワイルドの目的やテキストの活用方法、実際に子どもたちの指導法などを模擬体験を通して学んでいただけます。詳しい講習会情報についてはプロジェクト・ワイルドホームページに掲載中です。

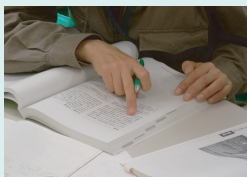


※ 資格取得は18歳未満でも可能ですが、資格が正式に有効となるのは18歳以上からです。

スキルを上げる

ファシリテーター養成講習会

年に2回、秋と冬に開催します。エデュケーター資格を取得し実績経験を積んだ方が講習会を受講して資格を取得することができます。



エデュケーターフォローアップ講習会

200近くあるアクティビティを1～2日の養成講習会でマスターすることなどとてもできません。毎年、本国（アメリカ）のアクティビティもスクラップ&ビルトされていきます。指導者間における最新情報の共有、指導者のスキルアップを目指した講習会を開催します。

プロジェクト・ワイルドには5種類のテキストがあります。

- **本編**
陸上動物、その生息地や生態系も含めて、自然環境保全の大切さを学ぶプログラム
- **水辺編**
海・河川・湖沼など、水域を生活圏としている水棲動物を通して、自然環境保全の大切さを学ぶプログラム
- **鳥編**
日本の野鳥を題材とし、アメリカのアイデアをベースとして作成したテキスト
身近でありながら意外と知らない事がたくさんある鳥について、学びを深めていくプログラム
- **幼児編（Growing Up WILD）**
生き物を通して、自然の中で子どもたちの素晴らしい感性を引き出していくプログラム
- **サイエンス&シビックス編**
野生生物に対する人間活動の影響について調査研究し、地域社会の仕組みを知ることを通して、持続可能な環境保全について学びを深めていくプログラム



指導者をさがす

開催予定日、実施場所などお気軽に事務局までご連絡ください。講師を派遣いたします。



プロジェクト・ワイルド

検索

シニアファシリテーター 山口 雪子氏

プロジェクト・ワイルドは米国どこでも多く学べるのが特徴のため、ロールプレイによる模擬体験的学習が多く、その中の1つに野生のクマになって冬越しするための食糧を集めるというものがあります。限られた食糧を確保するのはそれはもう大変！
「生き延びるために必死」「人の畑から食べ物もらってきたくなる」なんて感じて、
ではどうしたら人と野生の熊は上手に共生していくことができるんだろうか、と学びが深まります。体感して得た気づきの共有は、より良い未来を模索する思考や行動の礎を育てます。
また「人の知恵の素晴らしさ・秘めたる力」にも気づくでしょう。片目や片足の使えないケガしたクマは、とても生き延びられないと体感しますが、人はどうでしょうか？私は視覚障害ですが、普通に暮らしています。障害に限らず、どんな事情を抱えた人でも自分らしく生活・活躍する社会を築く知恵と力を皆が持っていると思われます。そしてその知恵と力は人の共生社会だけでなく、様々な生き物が生息する豊かな地球を次世代へと継承していくことでしょう。人は本来、素晴らしい知恵と力を備えているのです。
プロジェクト・ワイルドは野生動物を通して、より良い未来を目指す価値観・思考・態度といった「生きる力」を育みます。現在、日本の野鳥をテーマにした「鳥編」や幼児期を対象にした「グロウイング・アップ・ワイルド」とニーズにあわせた学びも広がっています。ぜひ自分自身で体感、確かめてみてください。



学校

対象年齢やフィールド、参加人数、地域に合わせてアレンジしたアクティビティが授業で実施されています。海辺の学校では海中生物を用いて学習するなどの工夫で、子どもたちの興味も増し自然の営みをイメージしやすくなります。現在、全国各地の様々な教育機関の現場で取り入れられています。



動物園・水族館

動物園や水族館は、実際の動物たちと間近で向き合える場となります。ここでは、本物の生きものにふれあいながら、動物の特徴と環境を同時に学習することができます。



地域

子ども会での海や山への遠足や、公園での自然観察会、市民を対象とした体験教室のイベント等で活用されています。

また、ボランティア団体、NPO法人などが実施する、小・中・高校への出前授業等でも活用されています。



企業

CSR活動として企業が取り組む地域社会への環境保全活動の一つとしても取り入れられています。

また、指導者養成講習会は、環境保全を学ぶだけでなく、合意形成を図るトレーニングや発表能力を磨くなどの人材育成にも優れていることから職員研修等でも活用されています。

